

	一般的名称	報告の概要
227	塩酸ミキサントロン	再発/難治性の非M3-急性骨髄性白血病患者23例に対する本剤を含む化学療法において、細菌感染症により3例が、小脳性運動失調症による感染により1例が死亡した。
228	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	小児骨髄性白血病患者17例を対象としたレトロスペクティブ研究において、ゲムツズマブオゾガマイシン/シタラビン併用により1例が侵襲性アスペルギルス症により死亡した。
229	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	急性骨髄性白血病患者115例を対象としたゲムツズマブオゾガマイシンと導入療法の併用を検討したランダム化比較試験において、導入化学療法による死亡が本剤併用群で8%、非併用群で7%あった。
230	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	原発性難治性骨髄性白血病患者264例を対象としてサルベージ療法にオールトランスレチノイン酸およびゲムツズマブ・オゾガマイシンの併用を検討した第2相試験において、死亡が認められた。
231	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	難治性および再発性急性骨髄性白血病患者45例を対象としたゲムツズマブ・オゾガマイシン/Arscytin/ミキサントロン(MIDAMレジメン)の有効性を検討した多施設共同研究において、31例が死亡した(白血病、感染、急性GVHD、多臓器不全、脳出血、VOD)。
232	塩酸セフェピム	セフェピムと他のβ-ラクタム系抗生物質の無作為化比較臨床試験57件を対象としたメタアナリシスにおいて、全死亡率が本剤で他のβ-ラクタム系抗生物質よりも高かった。
233	アルプロスタジルアルファデクス	動脈管依存性先天性心疾患のある新生児でプロスタグランジンE1を2週間以上長期投与した9例において、一時的な接触困難、腹部膨満、偽パーター症候群、皮質性過骨症などの重度の有害事象が見られた。
234	ホリナートカルシウム	前治療のない手術不能な肝内胆管癌患者17例、胆嚢癌患者13例を対象としたフルオロウラシル/葉酸/イリノテカン併用療法を検討するプロスペクティブ研究において、1例がグレード4の下痢を発現し、敗血症により死亡した。
235	エストラジオール	ホルモン補充療法と非ステロイド性消炎鎮痛剤の併用により、ホルモン補充療法単独の場合と比較して、心筋梗塞の発症が高まることが示唆された。
236	リバピリン	重症急性呼吸器症候群患者306例を対象とした後ろ向きコホート研究において、リバピリン投与が貧血、低マグネシウム血症、徐脈と有意に関連していた。
237	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、全身性エリテマトーデスの発症が高まることが示唆された。
238	メトレキサート	小児未分化大細胞型リンパ腫患者375例を対象としたランダム化試験において、BFM-K2+髄腔内メトレキサート投与群とBFM-K2+髄腔内メトレキサート非投与群で比較を行なったところ、それぞれ2例、3例が死亡した。
239	メトレキサート	小児及び青年期進行性リンパ芽球性リンパ腫患者85例を対象とした強力多剤化学療法及び非交差抵抗性維持療法において、4例が死亡した。
240	メトレキサート	小児急性骨髄性白血病患者1709例を対象として二次性悪性腫瘍リスクを検討したところ、メトレキサート及び6-メルカプトプリンによる維持療法期間が長くなるとリスクが高まることが示唆された。
241	メトレキサート	急性前骨髄性白血病患者582例を対象としたランダム化第3相試験において、10例が死亡した。
242	メトレキサート	未治療の急性リンパ性白血病患者61例を対象とした多施設第II相試験において、敗血症、肺炎で2例が死亡した。
243	メシル酸ドキサゾシン	術前3ヶ月以内にドキサゾシンを服用した患者27例(31眼)の37%(45%)で、手術中に虹彩緊張低下症候群(IFIS)が起こった。
244	メトレキサート	再発急性リンパ芽球性白血病患者127例を対象とした化学療法の比較試験において、ピンクリスチン/プレドニゾン/PEG-アスパラキナーゼ/ドキシソルピシン/髄腔内シタラビンおよびメトレキサートまたは3剤による髄腔内療法と高用量シタラビン/L-アスパラキナーゼ療法においてそれぞれ3例、2例が感染により死亡した。
245	メトレキサート	散発性パーキットリンパ腫患者66例を対象としたコホート研究において、メトレキサートを含む治療により、3例が死亡した。

	一般的名称	報告の概要
246	メトトレキサート	原発性精巣リンパ腫患者24例を対象としたコホート研究において、ドキソルビシンペールの化学療法/髄腔内メトトレキサート/放射線療法により3例が死亡した。
247	ケトプロフェン	光パッチテスト陽性者において、ケトプロフェンが光アレルギー抗原であることが示唆された。
248	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの常用者において、多発性骨髄腫の発症リスク上昇が示唆された。
249	ブスルファン	血液がん患者130例に対する1日1回静注ブスルファンとフルダラビン併用移植前処置レジメンにおいて、ブスルファンのAUCが6000 μ M \cdot min/日以上上昇した群において推定全死亡率の低下、非再発生存率と非増悪生存率の低下が認められた。
250	ブスルファン	幹細胞移植を実施した470例において、血漿中濃度によるブスルファンの用量調節群で静脈閉塞性肝疾患や出血性膀胱炎の発症が減少した。
251	アルプロスタジル	動脈管依存性先天性心疾患のある新生児でプロスタグランジンE1を2週間以上長期投与した9例において、一時的な接触困難、腹部膨満、偽パーター症候群、皮質性過骨症などの重度の有害事象が見られた。
252	アセトアミノフェン	非麻薬性鎮痛薬を常用している男性は、高血圧になるリスクが高いことが示唆された。
253	アセトアミノフェン	ワルファリンを投与されてINRの安定している患者にアセトアミノフェンを併用させたところ、INRが上昇した。
254	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDsとSSRIの併用により、重篤な上部消化器系副作用の発生率上昇が示唆された。
255	塩酸クレンブテロール	妊娠期間中の喘息治療薬の使用により、妊娠合併症の発症リスクが高まり帝王切開術の割合が高くなることが示唆された。
256	メシル酸デラルビジン	ブプレノルフィン/ナロキソンで維持されているオピオイド依存のHIV陰性ボランティア20例を対象とした薬物動態試験において、デラルビジン併用により、ブプレノルフィンの血中濃度を増加させ、エファビレンツはブプレノルフィンのAUCを低下させた。
257	ピラゾロン系解熱鎮痛消炎配合剤 (4)	アセトアミノフェンの常用者において、多発性骨髄腫の発症リスク上昇が示唆された。
258	アスパルテーム含有一般用医薬品	妊娠中にアスパルテームを投与された雌ラットから生まれた仔に継続してアスパルテームを投与したところ、リンパ腫・白血病発症率が用量依存的に増加し、雌での乳癌発症率が高まることが示唆された。
259	ホリナートカルシウム	ステージII, IIIの結腸癌患者2492例を対象として、術後アジュバント療法としてのweekly フルオロウラシル/ロイコボリン療法とweekly フルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン療法を比較するPhase III試験において、腸障害により前群で5例、後群で1例死亡した。また、化学療法開始後60日以内の死亡例は全体で28例であった。
260	ウロキナーゼ	ウロキナーゼによる治療を受けている脳梗塞患者294例を対象とした追跡調査において、14例に重篤な脳出血が認められた。
261	塩酸トリメキノール	妊娠時に抗喘息薬の使用経験のある女性において早産のリスクが増加し、また生まれた乳児は、低体重または在胎期間中の未熟リスクが増加することが示唆された。
262	プレドニゾン	真菌乾癬前の低用量のプレドニゾン投与または真菌感染後の高用量のプレドニゾンは死亡原因と関連があることが示唆された。
263	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者53例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン/ペバシズマブ併用のPhase II試験において、不整脈と詳細不明で2例が死亡した。

	一般的名称	報告の概要
264	ジアゼパム	小児の持続的痙攣に対するジアゼパム坐剤とミダゾラムパッカル剤を比較するランダム化盲検試験において、4例が死亡した。
265	ワルファリンカリウム	機械弁置換患者550例を対象としたコホート研究において、ワルファリン中用量群、高用量群と比較して、低用量群で出血リスクが高かった。
266	レボホリナートカルシウム	前治療のない手術不能な肝内胆管癌患者17例、胆嚢癌患者13例を対象としたフルオロウラシル/葉酸/イリノテカン併用療法を検討するプロスペクティブ研究において、1例がグレード4の下痢を発現し、敗血症により死亡した。
267	レボホリナートカルシウム	難治性膵癌患者17例、胆管癌患者8例、結腸直腸癌患者3例、胃癌患者2例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/イマチニブまたはフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン/イマチニブのPhase I 用量漸増試験において膵癌患者1例が白血球減少症、顆粒球減少症、血小板減少症、好中球減少性発熱をきたし、多臓器不全により死亡した。
268	塩酸セルトラリン	妊娠初期にセルトラリンを投与された母親から、4例の無脳症の児が見られた。
269	塩酸セルトラリン	妊娠第1期のセルトラリンの投与は、児の臍胎ヘルニアや中隔欠損と関連することが示唆された。
270	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ヒト上皮増殖因子受容体2型(HER2)陽性早期乳癌患者155例を対象として、一次化学療法後に本剤を投与する逐次投与群と併用投与群と比較したところ、前群で21.6%の心臓関連の有害事象が認められた。
271	塩酸バンコマイシン	2006年1月に世界で6件目のバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌が患者から単離された。
272	トレチノイン	妊娠マウスヘレチノイン酸を投与したところ、新生児精巣にアポトーシス陽性細胞の増加が認められた。
273	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	HER2陽性の早期乳癌患者に対する補助療法について系統的レビューおよびメタアナリシスを行なったところ、トラスツズマブ投与患者でステージ3/4のうっ血性心不全のリスクが有意に増加し、左室駆出率が有意に低下した。
274	アセトアミノフェン	ロジスティック回帰分析により、ステープンズジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症の発症を高める医薬品としてカルバマゼピンとアセトアミノフェンが示唆された。
275	ニフェジピン	カルシウム拮抗剤の使用は、胃食道逆流症および併発する非心臓性胸痛の原因である可能性が示唆された。
276	アセトアミノフェン	6-7歳の小児において、生後12ヶ月以内および直近12ヶ月以内のアセトアミノフェンの使用は喘息と関連のあることが示唆された。
277	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
278	シロドシン	健康成人男性を対象としたシロドシンによる射精障害の発生機序を検討した臨床研究において、射精障害は逆行性射精よりは射出障害によるものであることが示唆された。
279	テガフル・ウラシル	切除可能進行下咽頭扁平上皮癌患者40例を対象として、CF-MTX-LV療法(シスプラチン/フルオロウラシル/メトレキサート/ホリナートカルシウム)+放射線療法とCBDCA-UFT療法(カルボプラチン/テガフル・ウラシル)+放射線療法を比較したところ、Grade4の有害事象は前群で好中球減少5例、血小板減少1例、感染1例であり、後群では感染1例であった。
280	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
281	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
282	エストラジオール	ホルモン補充療法と非ステロイド性消炎鎮痛剤の併用により、ホルモン補充療法単独の場合と比較して、心筋梗塞の発症が高まることが示唆された。
283	ケトプロフェン	ホルモン補充療法と非ステロイド性消炎鎮痛剤の併用により、ホルモン補充療法単独の場合と比較して、心筋梗塞の発症が高まることが示唆された。
284	パミドロン酸二ナトリウム	パミドロン酸あるいはゾレドロン酸を静脈内投与したがん患者14349例と非使用者28698例をSEERプログラムのデータを用いて解析したところ、静注用ビスホスホネート使用群で顎又は顔面骨の手術リスクや顎の炎症状態または骨髄炎と診断されるリスクが有意に増加し、累積投与量の増加に伴い、リスクが増加した。
285	イホスファミド	ユーイング肉腫患者578例を対象とした無作為化あるいは非無作為化比較試験において、イホスファミドとシクロホスファミドとドキソルビシンの高用量併用により骨髄異形成症候群あるいは急性骨髄性白血病のリスクが増加することが示唆された。
286	ニフェジピン	カルシウム拮抗剤の使用は、胃食道逆流症および併発する非心臓性胸痛の原因である可能性が示唆された。
287	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
288	リファンピシン	健康男性10例を対象とした非盲検無作為化二方向性クロスオーバー試験において、リファンピシンとリスペリドンの併用により、リスペリドンのAUCや最高血漿中濃度が有意に減少した。
289	塩酸イリノテカン	日本人がん患者177例に対するイリノテカン単独療法、あるいは併用化学療法において、UGT1A*6あるいは*28の変異型を有する患者では重度の好中球減少のリスクが高いことが示唆された。
290	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
291	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用は、乳癌の発症リスクを増加させることが示唆された。
292	塩酸イリノテカン	日本人がん患者177例に対するイリノテカン単独療法、あるいは併用化学療法において、UGT1A*6あるいは*28の変異型を有する患者では重度の好中球減少のリスクが高いことが示唆された。
293	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用は、胃食道逆流症の病歴をもつ若年成人の胃食道逆流症状のリスク要因になる可能性がある。
294	エストラジオール	高齢女性へのホルモン補充療法は、心臓発作と脳卒中のリスクを高めることが示唆された。
295	ワルファリンカリウム	経口抗血栓剤を服用している心臓血管疾患および脳血管疾患患者3980例を対象とした多施設観察研究において、ワルファリン+抗血小板剤併用群ではワルファリン群と比較して、生命を脅かす出血の発現率(/1000人年)が抗血小板剤単独では5.8、抗血小板剤多剤併用では9.9、ワルファリンでは10.3、ワルファリン+抗血小板剤併用では19.1であった。
296	メトトレキサート	未治療のマントル細胞リンパ腫患者79例を対象としたリツキシマブ/メトトレキサート/強化CHOP/EARによる地固め療法において2例が死亡した。
297	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者53例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン/ペバシズマブ併用のPhase II試験において、不整脈と詳細不明で2例が死亡した。
298	ナプロキセン	ナプロキセンナトリウムの服用は、心血管系および脳血管系イベントの発症を高めることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
299	ヨウ化プラリドキシム	日本臨床検査薬協会の統一プロトコールで各種血糖測定器を用いて行なわれたヨウ化プラリドキシムの血糖測定値に対する影響度の確認において、治療域と考えられる濃度範囲においても偽高値が認められた。
300	塩酸ミキサントロン	多発性骨髄腫患者35例を対象とした高用量メルファラン+ミキサントロン併用療法において、1例が敗血症により死亡した。
301	メトトレキサート	再発性または難治性非ホジキンリンパ腫患者135例を対象として高用量維持療法(HDS)にリツキシマブ追加の有用性を検討したレトロスペクティブ調査において、HDS群で1例が膀胱癌により、R-HDS群で骨髄異形成症候群、甲状腺癌により2例が死亡した。
302	塩酸ミキサントロン	Grade3-4のマントル細胞リンパ腫患者30例を対象としたフルダラビン/シクロホスファミド/ミキサントロン/リツキシマブによる寛解後、90Y-Ibritumomab Tiuxetanによる強化療法を行なった試験において、1例が脳出血で死亡した。
303	ホスフェストロール	ジェチルスチルベストロールを母親の胎内で曝露された女性において、食道閉鎖症・気管食道ろうの子供が生まれる可能性が示唆された。
304	エストリオール	高齢女性へのホルモン補充療法は、心臓発作と脳卒中のリスクを高めることが示唆された。
305	ジアゼパム	小児遷延痙攣患者において、ジアゼパム直腸投与とミダゾラム経口投与の有効性、安全性を比較する中間解析のなかで、2人が呼吸抑制となり4人が死亡した。
306	塩酸ミキサントロン	マントル細胞リンパ腫患者73例を対象として高齢者群と非高齢者群に分けてリツキシマブ追加の高用量連続化学療法(R-HDS)を検討したところ、非高齢者群で1例が治療中に骨髄異形成症候群により死亡した。
307	塩酸ミキサントロン	ホルモン不応性前立腺癌患者63例を対象としたドセタキセル/ミキサントロン併用療法のプロスペクティブ多施設Phase II試験において、1例がリステリア性髄膜炎、2例が心筋梗塞により死亡した。
308	リスペリドン	健康被験者32例で、リスペリドンの後発品の経口溶液とリスペリドン錠剤のバイオアベイラビリティを比較したところ、後発品および先発品の錠剤の間での生物学的同等性は証明されなかった。
309	リスペリドン	健康男性において、CYP3Aの誘導剤であるリファンピシンとリスペリドンを併用したところ、リスペリドンと9-ヒドロキシリスペリドンのAUC、Tmaxが低下した。
310	リスペリドン	統合失調症患者において、リスペリドンの投与によりQT間隔が延長することが示唆された。
311	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
312	ブスルファン	HLA一致血縁ドナーによる同種幹細胞移植の患者70例を対象とした前向き試験において、可逆性血栓性血小板減少性紫斑病および溶血性尿毒症症候群が前処置としてブスルファン/シクロホスファミドを用いた群が、FTBI/VP-16群、Fle/Mel群よりも発症頻度が高かった。
313	ブスルファン	造血幹細胞移植患者60例を対象とした前処置として静注ブスルファンを1日4回投与群と1日1回投与群を比較した無作為化比較試験において、両群に肝中心静脈症が両群に認められた。

	一般的名称	報告の概要
314	ブスルファン	ブスルファンを含む全処置で同種造血幹細胞移植患者151例を対象としたレトロスペクティブ研究において、Grade3-4の重度の高ビリルビン血症を起こした患者では予後が悪かった。
315	ブスルファン	血液悪性腫瘍患者84例に対する10/10一致非血縁ドナーによるフルダラビン/1日1回静注ブスルファン/胸腺グロブリンを骨髄破壊的前処置として用いた造血幹細胞移植において、血小板生着不全により死亡した。
316	酒石酸エルゴタミン・無水カフェイン (1)	健康成人において、ゾルピデムとカフェインの併用により、ゾルピデムのAUC、Cmaxが上昇することが示唆された。
317	インドメタシン	NSAIDsとSSRIの併用により、重篤な上部消化器系副作用の発生率上昇が示唆された。
318	ヨウ化ブラリドキシム	ヨウ化ブラリドキシム投薬患者の血糖測定において、偽高値を示した事故発現施設使用機と基準機を用いて、偽高値を示す原因を調査したところ、事故発現施設使用機ではヨウ素の感受性が高かった。
319	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	局所脳虚血誘発マウスを用いたin vivo研究において、rt-PA誘発性虚血性脳損傷の悪化にポリADP-リボースの活性化増大が関与することが示唆された。
320	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
321	ホリナートカルシウム	予後不良進行結腸直腸癌患者2135例を対象としたランダム化臨床試験(MRC FOCUS試験)において、24例が死亡した。
322	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者54例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン療法とイリノテカン併用療法を検討するPhase II試験において、1例が消化器毒性とGrade4の好中球減少症を伴う肺水腫により死亡した。
323	ワルファリンカリウム	リコンビナントP450酵素を用いたハイスループット阻害スクリーニング研究において、市販のグレープフルーツ種子エキスのP450阻害降下を調査したところ、含有している塩化ベンザルコニウムがin vitroにおいて、CYP3A4とCYP2C9の強力に阻害した。
324	塩酸シプロフロキサシン	12例の被験者を対象とした無作為化オープンラベル二方向交差試験において、シプロフロキサシンと炭酸ランタンを併用した際にシプロフロキサシンのバイオアベイラビリティが有意に減少した。
325	エストラジオール	閉経後ホルモン補充療法(HRT)を行っている患者において、経口避妊薬の過去の前使用者は非使用者よりも乳癌発症のリスクが高まることが示唆された。
326	プロピルチオウラシル	プロピルチオウラシルの初期投与量について検討を行ったところ、国内での本剤の初回投与量は推奨されないという結果に至った。
327	チアマゾール	チアマゾールの初期投与量について検討を行ったところ、国内での本剤の初回投与量は推奨されないという結果に至った。
328	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。

	一般の名称	報告の概要
329	ホリナートカルシウム	進行性胃癌患者141例を対象とした高用量フルオロウラシルレジメン、高用量フルオロウラシル/葉酸併用レジメン、高用量フルオロウラシル/葉酸/シスプラチン併用レジメンを比較するランダム化Phase II 試験において、高用量フルオロウラシル/葉酸/シスプラチン併用レジメンにおいて、1例が胃内容物の誤嚥による両側性肺炎により死亡した。
330	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	ラット正常皮質に直接tPAを還流したところ、tPAが持続的に細胞外に存在することにより、ニューロンの損傷及び血液脳関門の破壊を起こすことが示唆された。
331	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	再発急性骨髄性白血病患者58例を対象としたレトロスペクティブ研究において、治療関連死が報告された。
332	ベバシズマブ(遺伝子組換え)	転移性結腸直腸癌、乳癌および非小細胞肺癌患者1715例を対象とした5つの無作為化コントロール試験の併合解析により、動脈血栓塞栓症のリスク因子として、動脈血栓塞栓症の既往を持つ患者、65歳以上の患者およびベバシズマブの使用があげられた。
333	吉草酸デキサメタゾン	出生直後に全身ステロイド剤長期投与を受けた早産児を平均8歳まで経過観察したところ、神経運動機能および認知機能が低下することが示唆された。
334	カンデサルタンシレキセチル	種々の心血管治療薬と自殺のリスク上昇と関連についてコホート内症例対照研究を行ったところアンジリテンシン II 受容体拮抗薬の使用により、5例の死亡例が見られた。
335	タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム	Burn Centerの医療記録およびコンピューターデータベースをレトロスペクティブに調査したところ、組織学的に中毒性表皮壊死症の診断を受けた32例のうち、10例が癌を有しており、うち1例がピペラシリンの投与を受けていた。
336	ジノプロストンベータデクス	プロスタグランジンE2膣錠とオキシトシンの併用により、過強陣痛、羊水混濁、子宮出血、発熱が見られた。
337	マレイン酸フルボキサミン	選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)の使用により、急性膵炎の発症リスクが高まることが示唆された。
338	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	ラット正常皮質に直接tPAを還流したところ、tPAが持続的に細胞外に存在することにより、ニューロンの損傷及び血液脳関門の破壊を起こすことが示唆された。
339	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	局所脳虚血誘発マウスを用いたin vivo研究において、rt-PA誘発性虚血性脳損傷の悪化にポリADP-リボースの活性化増大が関与することが示唆された。
340	マレイン酸フルボキサミン	選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)の使用により、急性膵炎の発症リスクが高まることが示唆された。
341	ケトプロフェン	非ステロイド性抗炎症剤の使用により、消化管イベントの発症リスクが高まることが示唆された。
342	ピペラシリンナトリウム	Burn Centerの医療記録およびコンピューターデータベースをレトロスペクティブに調査したところ、組織学的に中毒性表皮壊死症の診断を受けた32例のうち、10例が癌を有しており、うち1例がピペラシリンの投与を受けていた。
343	塩酸イリノテカン	フルオロウラシルおよびイリノテカンアジュバント化学療法レジメンを受けているハイリスク、ステージⅢの結腸癌患者400例を対象としたプロスペクティブ無作為化試験において、UGT1A1-3156G)A遺伝子突然変異型を有する患者では重度な血液学的毒性あるいは好中球減少の発現が有意に高いことが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
344	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン	本剤の単独接種または本剤を含む複数ワクチンの同時接種を受けた新生児98例を対象とした接種後3日間の心肺機能及びC-反応性蛋白値測定において、心肺疾患事象およびC-反応性蛋白値異常が認められた。
345	レボホリナートカルシウム	進行性胃癌患者141例を対象とした高用量フルオロウラシルレジメン、高用量フルオロウラシル/葉酸併用レジメン、高用量フルオロウラシル/葉酸/シスプラチン併用レジメンを比較するランダム化Phase II 試験において、高用量フルオロウラシル/葉酸/シスプラチン併用レジメンにおいて、1例が胃内容物の誤嚥による両側性肺炎により死亡した。
346	レボホリナートカルシウム	予後不良進行結腸直腸癌患者2135例を対象としたランダム化臨床試験 (MRC FOCUS試験) において、24例が死亡した。
347	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者54例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン療法とイリノテカン併用療法を検討するPhase II 試験において、1例が消化器毒性とGrade4の好中球減少症を伴う肺水腫により死亡した。
348	塩酸メトホルミン	長期治療を受けている2型糖尿病患者1493例を対象としたレトロスペクティブ研究において、メトホルミン非服用者と比較してメトホルミン服用者では腎機能低下のリスクが高いことが示唆された。
349	ベバシズマブ(遺伝子組換え)	ベバシズマブ投与後に肺高血圧症を発現した症例が全世界で8例報告された。
350	イトラコナゾール	肺移植後患者17例を対象とした単施設プロスペクティブコントロール研究において、吸入フルチカゾンとイトラコナゾール併用試験を行ったところ、イトラコナゾール非併用群と比較してイトラコナゾール併用群で有意にフルチカゾンの血中濃度が増加した。
351	塩酸ベラパミル	12人の健康な被験者においてベラパミルとテジサミルを併用すると、QT延長やPR間隔延長が起こることが示唆された。
352	シンバスタチン	in vitro及び臨床試験において、ラノラジンとHMG-CoA還元酵素阻害剤を併用した場合、HMG-CoA還元酵素阻害剤のIC50が減少し、臨床試験においてはシンバスタチンのAUC増加が起こることが示唆された。
353	プロポフォール	心房細動の患者で、長時間のプロポフォールの投与下で非外科的高周波カテーテルアブレーションをうけた場合、代謝性アシドーシスの発症リスクが高まることが示唆された。
354	メトレキサート	急性リンパ性白血病患者を対象としたメトレキサート髄腔内投与において、重篤な神経毒性が発現した。
355	メトレキサート	病理学的にステージIIと診断された男性乳癌患者31例を対象としたプロスペクティブ研究において、治療により1例が死亡し、7例に二次がんが認められた。
356	エストラジオール	閉経後ホルモン補充療法(HRT)を行っている患者において、経口避妊薬の過去の前使用者は非使用者よりも乳癌発症のリスクが高まることが示唆された。
357	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤の使用により、市中肺炎発症リスクが上昇し、中でも使用開始直後はリスク上昇率が高いことが示唆された。
358	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	妊娠高血圧ラットに硫酸マグネシウムを妊娠10日-20日に連続投与したところ、胎仔の心臓形成異常が見られた。

	一般的名称	報告の概要
359	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	母胎に硫酸マグネシウムを投与した仔ラットで、新生仔の動脈管収縮は無投薬新生仔に比べ遅延し、仔ラットの動脈管開存症発生に関連することが示唆された。
360	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	マグネシウム投与母体の超低出生体重児において、動脈管開存症(PDA)に対するインドメタシン投与率が高まることが示唆された。
361	レセルピン・塩酸ヒドララジン配合剤	4例の雌カニクイザルにヒドロクロチアジドを強制経口投与したところ、全例で血清カリウム低下が起こり、血清カリウム低値を保った2例については心室の多巣性心筋壊死や心電図変化が見られた。
362	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤の使用により、市中肺炎発症リスクが上昇し、中でも使用開始直後はリスク上昇率が高いことが示唆された。
363	メトトレキサート	移植前にウサギ抗胸腺細胞グロブリン処置を受けた骨髄移植を受けた悪性および非悪性疾患の小児70例の記録を精査したところ、6例が間質性肺炎を、5例がEBウイルス関連リンパ増殖性疾患を起こし、13例が死亡した。
364	エストロゲン〔結合型〕	閉経後、多年を経過した女性に対するホルモン補充療法は、心血管系障害や静脈塞栓症の発症リスクを高めることが示唆された。
365	メトトレキサート	メトトレキサートをベースとした化学療法の多施設Phase II試験において、32例のうち、1例が発熱性好中球減少症で死亡した。
366	ホスフェストロール	マウスにおいて、胎仔期のホスフェストロール曝露により先天性尿道下裂の発症が起こる可能性が示唆された。
367	高カロリー輸液用総合ビタミン剤(6)	登録時がんと診断されていなかった男性295344例を対象としたプロスペクティブ研究において、週7回以上のマルチビタミンの過剰摂取者は非摂取者と比較して、進行性および致死性前立腺癌のリスクが増加した。
368	酢酸リュープロレリン	65歳以上の前立腺癌患者において、放射線療法(RA)にアンドロゲン抑制療法(AS T)を6ヶ月併用した場合、RT単独の患者と比べ致死的心筋梗塞の発症時期が早くなることが示唆された。
369	ブスルファン	前処置にフルダラビン、ブスルファン、シクロホスファミドを使用したHLAタイプ一致幹細胞移植を行なった難治性白血病患者35例を対象として長期間の生存について評価したところ、真菌感染症と中心静脈閉塞症でそれぞれ1例が死亡した。
370	ブスルファン	前処置にクラドリビン、ブスルファン、放射線照射を行なったHLAタイプ一致幹細胞移植を行なった血液疾患患者27例を対象としたプロスペクティブ多施設臨床試験において、グレード3以上の不整脈、低酸素血症、高トランスアミナーゼ血症が認められた。
371	アプロチニン	冠動脈バイパス術施行者78199例を対象として、病院データベースを利用したレトロスペクティブ調査を行ったところ、アミノカプロン酸投与群と比較してアプロチニン投与群で死亡、腎不全のリスクが増加することが示唆された。
372	人血清アルブミン	外傷性脳損傷患者蘇生の大規模二重盲検試験(SAFE Study)の追跡研究において、460例の患者を追跡したところ、アルブミンによる蘇生群の方が生理食塩液による蘇生群よりも死亡率が高かった。
373	メトトレキサート	高用量メトトレキサートを含む多剤化学療法を受けた小児T細胞性急性リンパ芽球性白血病患者53例を対象とした後ろ向き研究において、13例が死亡した。
374	ソマトロピン(遺伝子組換え)	週3回以上運動を行っている健康な成人男女それぞれ10名において、成長ホルモンを投与したところ、20例中8例で下痢が生じた。

	一般的名称	報告の概要
375	フェノバルビタールナトリウム	妊娠中にカルバマゼピン、フェノバルビタールを使用した母親から生まれた4人の児で、多嚢胞性異形成腎が見られた。
376	塩酸ミトキサントロン	再発あるいは難治性の非ホジキンリンパ腫患者あるいはホジキン病患者59例に対するミトキサントロンを含む高用量化学療法後に自家移植を施行したところ、早期心毒性が2例で発現し、うち1例が死亡した。
377	塩酸ミトキサントロン	ミトキサントロンの投与を受けた多発性骨髄腫患者98例の診療記録を調査したところ、4例が急性前骨髄性白血病を発生した。
378	塩酸ミトキサントロン	B細胞性低分化型非ホジキンリンパ腫患者48例に対し、フルダラビン/ミトキサントロン療法を行なったところ、6例が死亡した。
379	メトレキサート	非血縁造血幹細胞移植を受けた白血病患者24例のうち、8例が死亡した。
380	メトレキサート	多剤併用術前化学療法を受けた陰茎癌患者20例を対象としたデータベース調査において、治療開始後2週間以内に1例が死亡し、その他肺炎、血栓塞栓症、細菌性肺炎により3例が死亡した。
381	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の10年以上の使用は、下肢動脈閉塞性疾患発症リスクを高めることが示唆された。
382	テガフル・ウラシル	進行・再発大腸癌患者35例を対象としたイリノテカン/テガフル・ウラシルのPhase II試験において、好中球減少がGrade3が7例、Grade4が2例、Grade3の貧血、白血球減少が各1例発現した。
383	マレイン酸フルボキサミン	高齢女性(平均年齢78.5歳)の前向きコホート試験において、SSRI使用群では腰部の骨塩密度が低下し、骨損失率が高まることが示唆された。
384	マレイン酸フルボキサミン	高齢男性(65歳以上)の前向きコホート試験において、SSRI使用群では腰部の骨塩密度が低下することが示唆された。
385	黄熱ワクチン	2001年からVaccine Adverse Event Reporting System (VAERS)に黄熱ワクチン摂取後にギランバレー症候群を発生した例が5例報告された。
386	メトレキサート	白血球数が $100 \times 10^9/L$ の急性リンパ芽球性白血病患者56例を対象としてメトレキサートを含む化学療法の効果を検討した試験において、5例が早期に死亡し、同種造血幹細胞移植を受けた患者のうち、3例も移植関連合併症、再発、移植非関連要因により死亡した。
387	メルカプトプリン	急性前骨髄性白血病患者302例を対象とした前向き多施設試験において、維持化学療法施行群で経過観察群よりも有意に全死亡率が低下した。
388	リスペリドン	リスペリドンを含む抗精神病薬を服用した高齢者患者において、大腿骨折による入院のリスクが高まることが示唆された。
389	塩酸ラニチジン	ヒスタミンH2受容体拮抗薬を連続使用しているアフリカ系アメリカ人の高齢者において、認知機能障害の発症リスクが高まることが示唆された。
390	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	中大脳動脈閉塞モデルラットにrt-PAを静脈内投与したところ、用量依存的に皮質と基底膜が傷害された。

	一般的名称	報告の概要
391	マレイン酸フルボキサミン	高齢男性(65歳以上)の前向きコホート試験において、SSRI使用群では腰部の骨塩密度が低下することが示唆された。
392	マレイン酸フルボキサミン	高齢女性(平均年齢78.5歳)の前向きコホート試験において、SSRI使用群では腰部の骨塩密度が低下し、骨損失率が高まることが示唆された。
393	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	CD33陽性急性骨髄性白血病患者46例を対象とした併用療法後の低用量ゲムツズマブオゾガマイシン投与の前向き多施設共同試験において、肺出血により1例死亡した。
394	エポエチン α (遺伝子組換え)	集中治療室への入院後48~96時間が経過した内科患者、外科患者、外傷患者1460例を対象とした前向き無作為化プラセボ対照試験において、プラセボ投与群と比較して、エポエチンアルファ投与群では血栓イベントの発生率が有意に増加した。
395	ベンズプロマロン	初診時までに痛風発作が2回以上あった痛風患者350例を対象としたレトロスペクティブ調査において、特に尿酸降下剤投与開始後1~2か月の間に痛風発作を起こすことが多かった。
396	アムホテリシンB	幼若ラットを用いた4週間反復静脈内投与毒性試験のための2週間投与予備試験において、大脳、小脳に出血性変化が認められた。
397	ヘパリンナトリウム	初期浸潤性治療を受けている中・高リスクの球性冠動脈症候群患者13819例を対象としたbivalirudin(BIV)、BIV+GP2b/3b阻害剤、ヘパリン+GP2b/3b阻害剤を無作為化したACUITY試験において、大出血が死亡率の予測因子となることが示唆された。
398	ケトコナゾール	ホスアンブレナビルとリナビルにケトコナゾール経口剤を併用すると、ケトコナゾールのAUCが高まることが示唆された。
399	レボホリナートカルシウム	日本人の切除不能転移性結腸直腸癌患者32例を対象としてFOLFOX4の実行可能性を検討したプロスペクティブ研究において、1例が間質性肺炎を発現し、呼吸不全により死亡した。
400	ジクロフェナクナトリウム	癌への結腸切除の際、疼痛処理として使用されるモルヒネの投与量減量目的でジクロフェナクを使用すると、吻合部離開が起こった。
401	ラベプラゾールナトリウム	プロトンポンプ阻害剤の使用により、Clostridium difficile関連下痢症の発症頻度が高まることが示唆された。
402	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子欠損中大脳動脈閉塞モデルマウスを用いた検討において、t-PA投与による頭蓋内出血増大はMMP-9よりPlgとMMP-3が重要な役割を果たしていることが示唆された。
403	アセトアミノフェン	非ステロイド性抗炎症剤(NSAIDs)アレルギーを早期発現(6歳未満)した群では、後期発現(6歳以降)群と比較してアセトアミノフェンに交差反応を示す割合が高いことが示唆された。
404	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子欠損中大脳動脈閉塞モデルマウスを用いた検討において、t-PA投与による頭蓋内出血増大はマトリックスメタロプロテアーゼ(MMP)-9よりプラスミノゲンとMMP-3が重要な役割を果たしていることが示唆された。
405	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	中大脳動脈閉塞モデルラットにrt-PAを静脈内投与したところ、用量依存的に皮質と基底膜が傷害された。
406	エストラジオール	エストロゲン+プロゲステロンの周期的併用療法を長期間行くと、子宮内膜癌発症リスクが高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
407	ジクロフェナクナトリウム	脊椎固定術後のジクロフェナクの使用により、使用量の増加と骨癒合不全・骨癒合遅延の間で相関関係が見られた。
408	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	一医療機関において、入院患者121人にインスリンを使用したところ、インスリンによる肝障害と思われた患者が13人いた。
409	ホリナートカルシウム	治癒切除手術後21日から56日のステージⅢ結腸癌患者1264例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン(LV)レジメン(629例)とフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン(CPT-11)レジメン(635例)を比較するランダム化試験(CALGE89793試験)において、試験登録後6か月以内の治療中の死亡率がLVレジメンでは1.0%、CPT-11レジメンでは2.8%であり、主な死因は好中球減少性敗血症と血管塞栓症であった。
410	ブデソニド	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の患者に吸入副腎皮質ステロイド(ICS)を投与したところ、肺炎による入院率及びその後30日以内の死亡リスクが高まることが示唆された。
411	塩酸パロキセチン水和物	妊娠第1期の塩酸パロキセチン暴露により、児の心奇形のリスクが高まることが示唆された。
412	メルカプトプリン	1996年から2004年の間にクローン病女性患者から出生した900例の子供についての全国コホート研究において、アザチオプリン/メルカプトプリン投与群において、早産と先天異常の発現リスクが高かった。
413	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	一医療機関において、再発寛解型多発性硬化症患者30例に対してインターフェロンベータ-1aを投与したところ、3例で投与直後の再発が認められ、うち2例はインターフェロン ベータ1bから1aへの切替例であった。
414	ジクロフェナクナトリウム	脊椎固定術後のジクロフェナクの使用により、使用量の増加と骨癒合不全・骨癒合遅延の間で相関関係が見られた。
415	ホリナートカルシウム	治癒切除手術後21日から56日のステージⅢ結腸癌患者1264例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン(LV)レジメン(629例)とフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン(CPT-11)レジメン(635例)を比較するランダム化試験(CALGE89793試験)において、試験登録後6か月以内の治療中の死亡率がLVレジメンでは1.0%、CPT-11レジメンでは2.8%であり、主な死因は好中球減少性敗血症と血管塞栓症であった。
416	リファンピシン	16例のボランティアを対象としてリファンピシンとモキシフロキサシン併用時の薬物動態を検討するオープンラベル薬物動態試験において、リファンピシンの投与により、モキシフロキサシンのAUCが27%減少した。
417	リファンピシン	16例のボランティアを対象としてリファンピシンとモキシフロキサシン併用時の薬物動態を検討するオープンラベル薬物動態試験において、リファンピシンの投与により、モキシフロキサシンのAUCが27%減少した。
418	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	ケニアの売春婦において、経口避妊薬の使用によりHIV-1の感染が増加することが示唆された。
419	ガドジアミド水和物	腎機能不全患者におけるガドジアミド投与は、鉄動員が増加し、トランスフェリンが過飽和となることが示唆された。
420	ブスルファン	骨髄破壊的あるいは骨髄非破壊的移植前治療を受け、移植が行なわれた造血器疾患患者123例を対象としたレトロスペクティブ研究において、GVHD、ブスルファンの使用等が移植後の血栓性微小血管症発症のリスク因子であることが示唆された。
421	塩酸ミキサントロン	ミキサントロン療法を施行された再発寛解型多発性硬化症、進行再発型多発性硬化症、2次性進行性多発性硬化症患者509例を対象とした多施設オープンラベルRENEW試験において、7例が死亡し、1例が白血病を発生した。

	一般的名称	報告の概要
422	塩酸ミトキサントロン	ホルモン不応性前立腺癌患者63例を対象としたドセタキセル/ミトキサントロン併用療法のプロスペクティブ多施設Phase II試験において、1例がリステリア性髄膜炎、2例が心筋梗塞により死亡した。
423	エンチフルゾン	リウマチ性関節炎の患者に糖質コルチコイド製剤と疾患修飾性抗リウマチ剤(DMARDs)を併用すると、感染症にかかるリスクが高くなることが示唆された。
424	プレドニゾン	顔面に血管腫を患う幼児20人について経口ステロイド療法群と静中ステロイドパルス療法群に分けて治療を行ったところ、両群から1名ずつ呼吸窮迫が生じ、経口群の患者1名は併発性でない水痘を発症した。
425	センナ・センナ実	芍薬甘草湯とセンナ製剤を併用した30人中6人で低カリウム血症が発症した。
426	ランソプラゾール	開心手術後にランソプラゾールとワルファリンを併用した患者において、INR上昇が見られ、術後の出血性合併症のリスクとなることが示唆された。
427	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	インフリキシマブを投与された回腸嚢や吻合を伴う結腸切除術を実施した潰瘍性大腸炎患者35例と手術日等をマッチさせた対照群35例を対象としたケースコントロール研究において、インフリキシマブ群で6例に副作用が発現し、1例は嚢にリンパ腫が認められた。
428	テモゾロミド	FDAに1999年8月11日から2006年11月3日に報告されたテモゾロミド投与患者における再生不良性貧血の報告18件を分析したところ、テモゾロミドの関与の可能性を否定することができなかった。
429	塩酸ミトキサントロン	急性リンパ性白血病およびリンパ芽球性リンパ腫患者143例を対象とした化学療法と幹細胞移植のPhase II試験において、寛解導入療法時に14例、強化療法中に3例が感染、頭蓋内イベント、出血により死亡した。
430	ニコチン含有一般用医薬品	ヌードマウスにヒト結腸癌細胞を移植後ニコチンを経口投与したところ、腫瘍の大きさ及び単位面積あたりの血管数が、ニコチンの用量に応じて増大、増加した。
431	塩酸バンコマイシン	心内膜炎患者のVancomycin-intermediate Staphylococcus aureus(VISA)菌株とdaptomycinに関する研究において、バンコマイシンの低感受性株(MIC8 μ g/mL)が報告された。
432	メシル酸ペルゴリド	ラットにおいて、in vivoでペルゴリドを長期投与したところ、心臓弁膜症が見られた。
433	メタヨードベンジルグアニジン(131I)	進行性、難治性あるいは再発性の神経芽腫患者164例を対象とした第2相試験において、2次性悪性腫瘍が5例に発生した。また、カリニ肺炎、毛細血管漏出症候群、MDSあるいはAMLにより6例が死亡した。
434	カルボプラチン	カルボプラチンを複数回投与された女性126例を対象としたレトロスペクティブ研究において、プラチナフリーインターバルが長いほど過敏症の発現率が上昇することが示唆された。
435	ジクロフェナクナトリウム	ロジスティック回帰分析により、スティープンジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症の発症を高める医薬品としてカルバマゼピンとアセトアミノフェン、ジクロフェナクが示唆された。
436	ホリナートカルシウム	局所進行食道胃癌患者119例を対象としたPET診断で術前科学療法の方角性を決めるPhase II試験において、卒中発作、突発性心疾患で2例が死亡した。
437	ホリナートカルシウム	転移または再発食道扁平上皮癌患者41例を対象とした週2回投与のパクリタキセル/シスプラチンとフルオロウラシル/ロイコボリンを併用するレジメンを検討するPhase II試験において、侵襲性真菌感染症により1例が死亡した。

	一般的名称	報告の概要
438	人血清アルブミン	外傷性脳損傷患者蘇生の大規模二重盲検試験(SAFE Study)の追跡研究において、460例の患者を追跡したところ、アルブミンによる蘇生群の方が生理食塩液による蘇生群よりも死亡率が高かった。
439	ホスフェストロール	マウスにおいて、新生児期のホスフェストロール曝露により、陰茎骨の奇形や陰茎の長さ、直径や重量の低下などを引き起こすことが示唆された。
440	リン酸オセルタミビル	ラット由来の海馬神経細胞を用いたin vitro試験において、オセルタミビルが脳細胞を興奮させる作用があることが示唆された。
441	リバビリン	2007年7月24日までにリバビリンを投与に伴う妊娠症例2229例のうち、先天異常:46例、小児疾患:11例、人工中絶:364例、胎児死亡:158例が認められた。
442	ホリナートカルシウム	転移または再発食道扁平上皮癌患者41例を対象とした週2回投与のパクリタキセル/シスプラチンとフルオロウラシル/ロイコボリンを併用するレジメンを検討するPhase II試験において、侵襲性真菌感染症により1例が死亡した。
443	メトレキサート	生殖細胞癌患者62例を対象としたGA-MEC療法(G-CSF,アクチノマイシンド,メトレキサート,エトポシド,シスプラチン)のPhase II試験のプロスペクティブ解析により、敗血症、絨毛腫に基づく腹腔内出血により5例が死亡した。
444	レボホリナートカルシウム	Stage III大腸癌患者1101例を対象としたフルオロウラシル+レボホリナートカルシウム群とテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム+ホリナートカルシウム群の無作為化比較試験において、31例に二次癌が発生した。
445	エストラジオール	エストロゲン+プロゲステロンの周期的併用療法を長期間行くと、子宮内膜癌発症リスクが高まることが示唆された。
446	テガフル・ウラシル	Stage III大腸癌患者1101例を対象としたフルオロウラシル+レボホリナートカルシウム群とテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム+ホリナートカルシウム群の無作為化比較試験において、31例に二次癌が発生した。
447	ゾレドロン酸水和物	オーストラリア副作用諮問委員会に経口ビスホスホネート製剤のうち、腎機能障害あるいは腎不全の報告が、ゾレドロン酸で多く報告された。
448	ワルファリンカリウム	心房細動入院患者18867例を対象としたレトロスペクティブ研究において、有色人種、特にアジア人は白人に比べてワルファリン投与により、頭蓋内出血のリスクが高まることが示唆された。
449	ニコチン含有一般用医薬品	ニコチンを高用量に摂取したマウスの小核試験では、多染性の赤血球の増加が見られ、遺伝毒性が示唆された。
450	メシル酸サキナビル	HIV感染患者12例を対象とした研究において、リナビルとサキナビルの併用投与では短期間の併用療法よりも長期間の併用投与のほうが、両剤の血中濃度が低下した。
451	ホリナートカルシウム	局所進行食道胃癌患者119例を対象としたPET診断で術前科学療法の方向性を決めるPhase II試験において、卒中発作、突発性心疾患で2例が死亡した。
452	塩酸ヒドララジン	妊娠高血圧ラットに硫酸マグネシウムを妊娠10日-20日に連続投与したところ、胎仔の心臓形成異常が見られた。
453	非ピリン系感冒剤(4)	感冒様症状の68歳女性が非ピリン系感冒剤(4)顆粒とレボフロキサシンを使用したところ、薬物性肺炎(間質性肺炎)が発症した。